

地域住民も通うキャンパス～地域を豊かにする大学へ！～

私たちの在学する名古屋工業大学（愛知県名古屋市昭和区御器所町）は約14000m²程の小さなキャンパスで周囲には住宅地や都市公園、大型商業施設、大学病院が位置しています。このような立地を活かし、キャンパスを地域住民も集い・憩う場として提供し、かつ学生も学外の地域の方々と交流する機会を持つことで新たな地域コミュニケーションを促し、大学を核としたまちづくりを提案します。



本提案のアプローチ

提案A 2009年実施

まちの現状把握と問題整理

→ アンケート調査、ヒアリング調査（住民計28名）により、まちの実態を整理

アクセス路の提案

→ 安全な移動空間を提供

提案B 2010年実施

アクセス路通過へのきっかけづくり

→ 本学学生との交流をきっかけに、地域住民のアクセス路利用を促進

地域住民と本学学生の交流意識調査

→ ヒアリング調査（住民計38名 本学学生計40名）

イベントの提案・施設の提案

→ 学内外でのイベントの宣伝や施設の提案

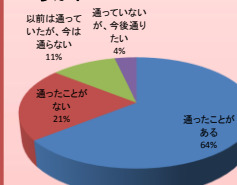
期待される効果

- 地域住民の継続的な学内アクセス路の利用により、大学を含めた新たな地域コミュニケーションの創出
- 年齢格差のない活気あふれるまちづくり
- 地域の安全性向上

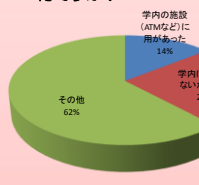
提案A

① まちの現状把握

Q 学内を通ったことがありますか？



Q 学内を通る際の目的は何ですか？



Q 大学と地域の小学校の関わりは？

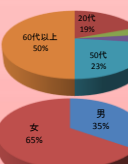


Q 大学周辺の主な利用施設は？



その他（アンケート・ヒアリング調査より）
 ・まちの高齢化が進み、住人が減少してきている。（町内会長）
 ・名工大の下宿生が減ってきている。（町内会長）
 ・昔はイベントを通して学生とのコミュニケーションはあったが、今では全くない。住民間では老人会などでコミュニケーションを行っている。（町内会長）
 ・近隣小学校は運動会や選挙の投票所などで施設提供を行うなど、名工大に比べ地域との関わりが高い。（自由記述より）

個人属性



調査結果より・・・

地域住民は、名工大を通った経験のある人は多い一方で、昔と比べると大学と周辺地域の関係は希薄になりつつあると考えられる。

② 周辺地域の環境

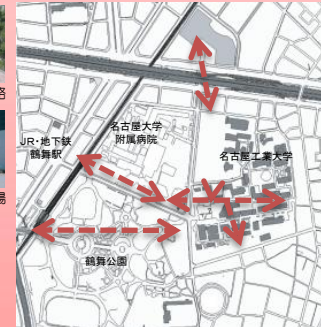


③ アクセス路の提案

キャンパス内は車両通行ルールによって、歩行空間と車両通行路が分断されている。また車両通行路にはハンブも設置され速度抑制対策も行われており、歩行者の安全が確保されている。



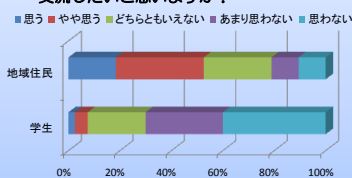
周辺施設を利用する際の安全なアクセス路として学内道路を提供することで、大学と地域間の新たな関係を模索する。



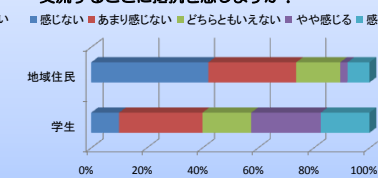
提案B

地域住民と本学学生の交流意識調査

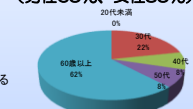
Q 名工大の学生と（地域住民と）交流したいと思いますか？



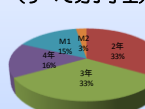
Q 名工大の学生と（地域住民と）交流することに抵抗を感じますか？



地域住民の年齢属性（男性65%、女性35%）



学生の年齢属性（すべて男子学生）



Q 名工大の学生のイメージについてどのように感じますか？



地域住民は交流することに肯定的

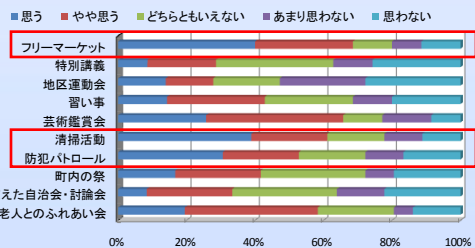
学生は交流することに否定的

提案B

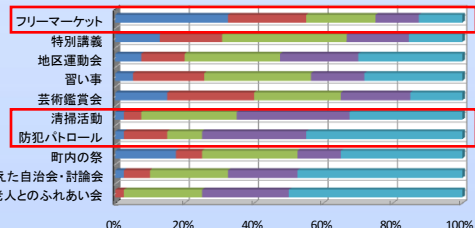
■イベントの提案

Q 以下のイベントを行う場合、参加したいと思いますか？

地域住民
の回答

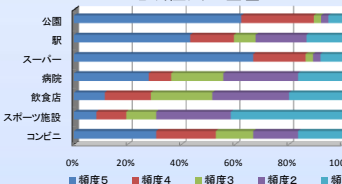


学生の
回答

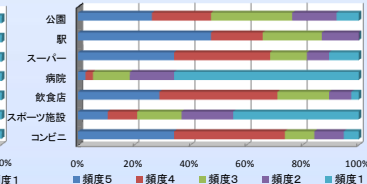


Q 以下の大学周辺の施設についてどのくらいの頻度で利用していますか？
(利用頻度高い：5 ～ 利用頻度低い：1)

地域住民の回答



学生の回答



地域住民・学生ともにスーパーやコンビニの利用頻度が高い。

地域住民・学生ともにフリーマーケットの割合が高い一方で、地域住民の方の参加意欲が高い、清掃活動や防犯パトロールのようなボランティア系のイベントは、学生の参加意欲が低い。

提案

- 学内 → 大学祭以外にも、定期的に住民・学生ともに参加できるフリーマーケットや屋台を出店。
- 学外 → 周辺地域の祭りなどに学生主体の屋台を出店。



売り手と買い手で会話が成立するフリーマーケット

交流が生まれる環境を創出

■施設の提案

Q 以下の施設が大学内や地域にあった場合、利用したいと思いますか？

地域住民
の回答



学生の
回答



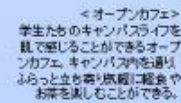
＞大学内の施設の提案



<聖堂台>
11階建ての2号館
地区古は名古屋
駅を一望する
ことができる
眺望スポット。
住民の方にも関
心し、地域の魅
力の一つとする。



<地域掲示板>
キャンパス内の緑地上に
掲示板を設置し、地域のイ
ベントや学生向けに開
催する。定食屋などのセー
ル、イベントなどを告知で
き、宣伝に活用できる。



<オープンカフェ>
学生たちのキャンパスライフ
を肌で感じることができ
るオープンカフェ。キャン
パス内を通りかかると
ふと立ち寄り気軽に飲食
やお茶を楽しむことが
できる。



<校友会館(cafe sub)>
大学内で本格的なイタリ
アの味が楽しめるカ
フェレストラン。現在は
正門を過ぎると入店でき
ないが、学外からも直
接入店できるように、住
民の方にもさらに利用し
やすい店づくりを目指す。

＞周辺地域の施設の提案



<スポーツ施設>
大学周辺の市のスポーツ施設
でも利用できる。大勢でも
利用できる。異なる世代の
人がスポーツを通して一
緒に汗を流すことで、よ
り快適な生活が送れるだ
ろう。



<銭湯>
年齢を問わず利用できる銭
湯では、疲れもとれ身も洗
われる。ここで生まれる
会話は世代を超え、全
国的なコミュニケーション
の場となるだろう。

■その他の提案

＞名工大新聞の学外への配布

現在名工大内でのみ配布されている新聞を学外の地域住民の方にも配布し、大学の様子や情報等を提供することで、大学に対する抵抗感を減らす。

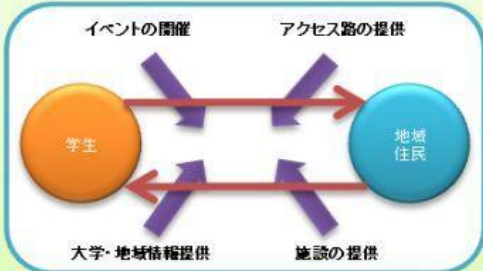
＞周辺店舗の広告を学内掲示板・名工大新聞に掲載・配布

加えて、地域にある飲食店等の広告を掲示板・新聞に掲載することで、学生の周辺地域に足を運ぶ機会を増やす一助とする。

＞芸術鑑賞会の開催

オーケストラ部やジャズ部など、学内の部活・サークルに演奏場所を提供し、地域の人にも見に来てもらう。演奏に関して地域住民と学生の間で共通の話題ができるほか、部活の振興にもつながる。

まとめ



地域住民と学生がコミュニケーションする機会を与え世代格差を解消することで、大学を含めた地域全体をより豊かに変えていくことができるだろう。

今後の展開

●本提案の実現性

ここまで挙げてきた内容はあくまで提案であり、実際に実現するまでには至っていない。イベントの開催や施設の建設にあたっては、地域住民と大学双方の理解と協力を得ることが必須である。開催費用や建設費用の捻出といった問題点もある。

●大学と周辺地域の新たな可能性

これらの計画が実現すれば地域住民と大学による新たな関係が生まれ、より親密な関係を構築できる可能性を秘めている。本校がその先駆けとなり、全国の大学等に大学と周辺地域の新たな在り方を示していくことができる。

●“名工大キャンパス30年計画”

現在、大学の施設本部では“名工大キャンパス30年計画”と銘打った大学の長期計画プロジェクトをスタートさせる予定にある。私たちの本提案ととも大学側と共同で計画を推進していくことが重要である。

名古屋工業大学大学院
都市交通研究室

横山裕章 / 永田史孝 / 山口大輔 / 萩田隼平 / 市橋祐希 / 松浦一真 / 松林祐太 / 伊藤大智 / 中野宏俊